

## 第43回 国際福祉機器展 H.C.R.2016 出展者プレゼンテーション2 電動車椅子で旅にしよう—電動車椅子で飛行機に乗るには— 報告

兵庫頸髄損傷者連絡会 宮野 秀樹

2016年10月12日(水)から14日(金)の3日間、東京ビッグサイト開催された「第43回 国際福祉機器展 H.C.R.2016」に参加し、13日(木)に出展者プレゼンテーション2で一般社団法人日本リハビリテーション工学協会が開催したセミナー「電動車椅子で旅にしよう—電動車椅子で飛行機に乗るには—」にスピーカーとして発表してきたので報告します。

リハ工学協会が H.C.R. で行うセミナーに主催者側として関わるのはこれで3度目。一昨年は「福祉機器の公的支援制度」、昨年は「褥瘡」がテーマでしたが、今年は「航空機を利用する旅」がテーマ。電動車椅子(車椅子)ユーザーが航空機を利用して旅行する際の課題を、利用者・事業者が一緒になって考えるという内容で、スピーカーは JAL プライオリティ・ゲストセンターの黒沢直子さんと佐賀大学医学部の松尾清美さん、そして私の3人が務めました。



左から黒沢さん、私、松尾さん、リハ工学協会・中村さん

私は利用者の立場で航空機利用時に気をつけていること、工夫していること、利用するに当たっての心構え等々、海外旅行も含めて23往復の航空機利用経験から考える課題や要望を話しました。JAL 黒沢さんからは、受け入れ側、事業者としての取り組みが話され、プライオリテ

ィゲストサービスの紹介や搭乗の際に必要な手続き、車椅子ユーザーにお願いしたいことなど、わかりやすく丁寧に説明していただきました。航空事業者にとっての「安全」という概念についてもお話しいただき、私たちが知らなかった航空機利用時の受け入れ側の苦勞を知ることもできました。佐賀大学・松尾さんは、研究者の立場から空港側のバリアの問題や権利としてのアクセシビリティの考え方をお話しいただきました。どのスピーカーからのお話しも大変興味深いものばかりで、1時間という枠で納めるにはもったいない内容でした。

内容全てを書くのはページ数の関係上避けませんが、今回のセミナーでハッキリとわかったことは「利用者・事業者がもっと意見交換して歩み寄るべき」ということ。受け入れ側が我々を「安全」に搭乗させるために、あまりに多くの手続きが必要である現状が我々利用者側には知らされていません。「何のためにこのような手続きが必要なのか」を全て情報開示することで、利用者側にも「余裕を持って空港に行くべき理由」が必ず理解してもらえるはずです。

2020年に開催される東京オリンピック&パラリンピックに向けてクリアすべき課題がたくさんあると感じたセミナーでした。



参加者との意見交換も活発に行われました